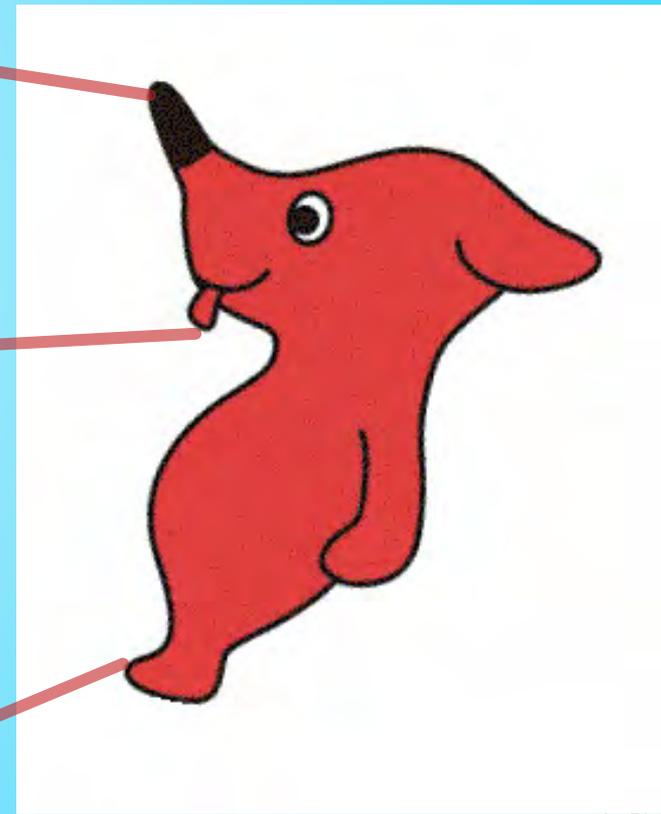


高次脳機能障害支援事業

千葉県





千葉県
マスコットキャラクター
チーバくん



(C) Mapion

千葉県



人口

6,267,517人
(H31年4月1日時点)

市町村数

54市町村
(37市16町1村)



千葉県の取組は2本柱

- ▶ 千葉県高次脳機能障害支援センター事業
(県単独事業)
- ▶ 千葉県高次脳機能障害支援普及事業
(国庫1/2、地域生活支援事業)

千葉県高次脳機能障害支援センター

- ▶平成23年度に千葉リハビリテーションセンター内に設置（**千葉県単独事業**として実施）
- ▶外傷性脳損傷などにより、記憶障害、注意障害、遂行機能障害等の後遺症を呈するいわゆる高次脳機能障害について、機能回復訓練、生活・介護支援等社会復帰に向けた支援を、医療・福祉の両側面から総合的に提供し、**専門的かつ個別的な**支援ニーズへの対応を行うこと。

外来を受診・相談
を希望される皆様

成人リハ・関節外科に入院
を希望される皆様

小児医療・福祉施設の利用
を希望される皆様

成人支援施設の利用
を希望される皆様

高次脳機能障害支援
センター

高次脳機能障害支援センター

高次脳機能障害支援センター



お知らせ・イベント情報

[一覧を見る](#) [RSS](#)

2019年5月7日 [イベント](#) [高次脳機能障害地域支援者向け連続講座 2019を開催します。](#)

誰もがその人らしい生活をおくるために

高次脳機能障害が原因で、就労や福祉・教育等の場に馴染めず生活のしづらさを抱えている方に対し、その人らしい生活が出来るような支援を高次脳機能障害支援センターで行っています。

お問合せ・相談

受付時間 9:00～17:00

TEL 043-291-1831 (総合相談部)

月曜日～金曜日(祝祭日は除く)

お困りの事がありましたら、上記の相談窓口までご連絡ください。

事業内容

- 復職・就労支援
- 復学支援
- 社会適応支援
- 地域生活移行・安定支援
- 生活の質向上支援
- 対人関係能力向上支援
- 自動車運転再開支援
- 家族・家族会支援
- 関係機関・支援者支援
- 会議・研修の実施



千葉県高次脳機能障害支援普及事業

- ▶国の「高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業」
 - 支援拠点機関の設置
支援拠点機関と地域支援拠点機関の2種類
 - 支援コーディネーターの配置
 - ・相談支援事業、普及・啓発事業、研修事業



旭神経内科リハビリテーション病院



千葉県千葉リハビリテーションセンター



亀田リハビリテーション病院



支援拠点機関と地域支援拠点機関

【支援拠点機関】（地域支援拠点機関への助言指導）

- ▶ 千葉県千葉リハビリテーションセンター（千葉市、H18～）
 - 全県が支援対象
 - 地域支援拠点機関への助言指導

【地域支援拠点機関】

- ▶ 旭神経内科リハビリテーション病院（松戸市、H19～）
東葛北部障害保健福祉圏域及び東葛南部障害保健福祉圏域
- ▶ 亀田リハビリテーション病院（鴨川市、H21～）
安房障害保健福祉圏域（鴨川市、館山市、南房総市、安房郡鋸南町）



旭神経内科リハビリテーション病院

千葉県千葉リハビリテーションセンター

亀田リハビリテーション病院

平成30年度 活動実績

直接相談延べ件数		間接相談延べ件数	
電話	970	電話	1,184
来院／来所	2,199	来院／来所	83
メール／書簡	209	メール／書簡	103
その他	153	その他	73
計	3,529	計	1,443

千葉県千葉リハビリテーションセンター

直接相談延べ件数		間接相談延べ件数	
電話	878	電話	1,071
来院／来所	1,771	来院／来所	76
メール／書簡	204	メール／書簡	88
その他	152	その他	71
計	3,005	計	1,306

旭神経内科リハビリテーション病院

直接相談延べ件数		間接相談延べ件数	
電話	77	電話	83
来院／来所	30	来院／来所	4
メール／書簡	0	メール／書簡	0
その他	0	その他	0
計	107	計	87

亀田リハビリテーション病院

直接相談延べ件数		間接相談延べ件数	
電話	15	電話	30
来院／来所	398	来院／来所	3
メール／書簡	3	メール／書簡	15
その他	1	その他	2
計	417	計	50

最近の動き

千葉県高次脳機能障害支援拠点機関 担当者会議

各支援拠点機関の施設見学も兼ね、事業の進め方について実務者レベルの相談を行う。

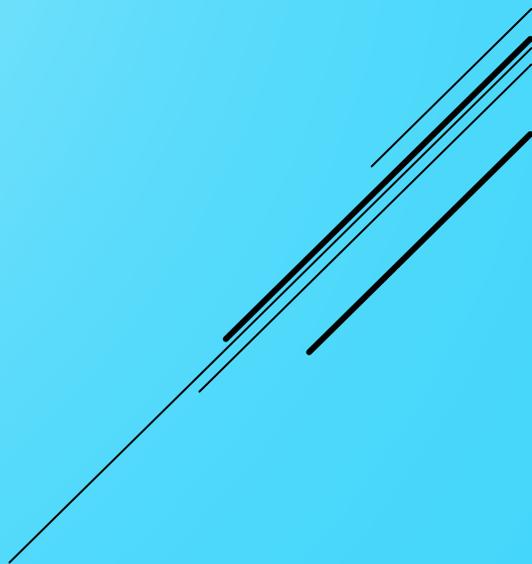
千葉県高次脳機能障害支援コーディネーター研修会

千葉県における本事業の更なる推進のために、支援拠点機関の支援者間の情報交換・共有を行い、相互の連携を図るとともに、支援コーディネーターの質的向上に寄与する。

CHI-BA+KUN



当院の取組



当院の取組

- ▶ 失語症対象通所リハビリ「言花」の実施
- ▶ 社会復帰へ向けた集団訓練「さくらの会」の実施
- ▶ 高次脳機能障害集団精神療法プログラムの実施
- ▶ 当事者を従業員とした「高次脳カフェ」の実施
- ▶ 家族会主催のグループ活動「菜の花チア」への活動支援
- ▶ 高次脳機能障害を有する方へのボランティア養成講座の開催
- ▶ 復職・就労懇話会「ちば家族のWA」
- ▶ 研修会開催

高次脳カフェ

- ▶ 社会復帰へ向けた集団訓練「さくらの会」のプログラムの一つとして展開
- ▶ 当事者の職業体験の場として提供
- ▶ 家族・支援者に普段の生活とは異なる働く姿をみてもらう
- ▶ 地域の事業所に事業を周知し、高次脳機能障害に対する理解を深めてもらう

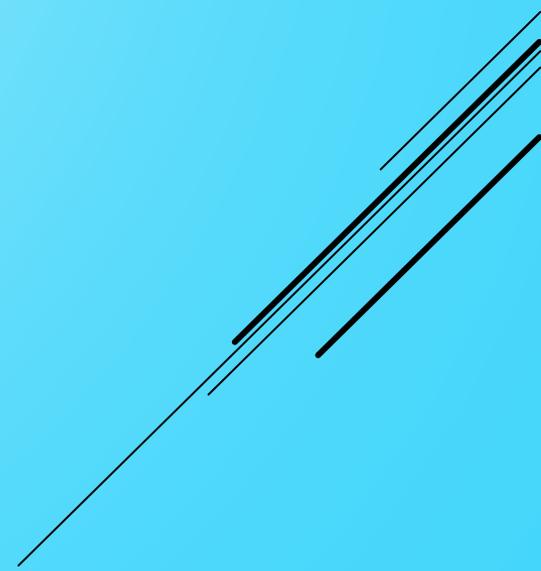
高次脳カフェの流れ



事前打ち合わせ



会場設備の検討



当事者が作成したメニュー

♪♪♪ CAFÉ MENU ♪♪♪

いらっしゃいませ♡ 以下メニューになります。お決まりになりましたらスタッフにお申し付け下さい。

* 飲み物は茶うけ菓子付きです。

* 消費税込み価格¥200

* **御茶類** (各 **アイス** / **ホット有**)

* **紅茶**

* **日本茶**

* **コーヒー** (各 **アイス** ・ **ホット有**)

* **レギュラー**

* **カフェオレ**

ごゆっくりおくつろぎ下さい。



事前練習



リハーサル



カフェ当日



当事者の様子①

▶ オーダー／配膳係

→最初は緊張しており、オーダー表の記入にも苦労していた。だが、慣れてくると自然な笑みも見られ、落ち着いて接客されていた。お客様と自然に会話する様子も見られた。

▶ 飲食物の準備係

→最初はコーヒーをカップに注ぐ際にこぼしたり、こぼれたことに気が付かないまま提供したり、量が均一でなかったりした。だが、後半では手順を把握したようで、正確かつ素早くドリンクを用意されていた。

当事者の様子②

▶ 洗い場係

→序盤は手持ちぶさたな様子だったが、洗い物が出てくると、集中して洗い物されていた。最初は蛇口や水切り籠の位置が把握しづらく戸惑っていたが、後半はほぼ自力で出来ていらした。

▶ 会計係

→オーダー／配膳係も兼任。接客以外の時はポケットに手を入れていたが、接客中は手を出して、笑顔で対応されていた。会計時のおつりや領収書の記入も問題なくこなしていた。

アンケート結果

- 落ち着いた雰囲気と美味しいコーヒーが心地良かったです
- 明るく、丁寧に対応して頂きました
- 皆さん、すごく楽しそうに取り組まれていて、こちらでも楽しくなりました
- どの位成長したか（障害が改善したか）本当に楽しみに見られた場所だったと感謝しています
- 他の家族の方ともお話が出来てとても良かったです
- とても丁寧で、心づかいを感じ、また来たいと思いました

高次脳機能障害を有する方への ボランティア養成講座

- ▶ 対象者の方に合わせたリハビリ的なボランティアを提供することを目的とした研修
- ▶ 全10回の高次脳機能障害に関するミニ講義とレクリエーション実習（1回 2時間）
- ▶ 会場は就労継続支援B型事業所
- ▶ 住民主体の通いの場の運営や講師など地域リハビリを支える人材育成
- ▶ 高次脳機能障害支援施設・団体への人的支援の一助

ボランティア養成講座の内容

- ▶ 第1回 「高次脳機能障害とは？」 「レクリエーションの見学」
- ▶ 第2回 「注意障害」 「レクリエーションへの参加（1）」
- ▶ 第3回 「失認」 「レクリエーションへの参加（2）」
- ▶ 第4回 「記憶障害」 「レクリエーションの補助（1）」
- ▶ 第5回 「失行」 「レクリエーションの補助（2）」
- ▶ 第6回 「遂行機能障害」 「レクリエーションの企画（1）」
- ▶ 第7回 「失語症」 「レクリエーションの企画（2）」
- ▶ 第8回 「社会的行動障害」 「レクリエーションの実践（1）」
- ▶ 第9回 「日常生活で困ること」 「レクリエーションの実践（2）」
- ▶ 第10回 「社会生活で困ること」 「まとめ」

受講者の感想

- ▶ 「支援の仕方が変わった。右麻痺、左麻痺によって症状が見えるようになった。例えば左無視の方には、右側からお茶を出す等」
- ▶ 「職場会議で高次脳ボランティア育成講座の発表する機会が持てた。」
- ▶ 「最初は不安だったが、一緒に参加出来たので楽しく出来た。講義も難しくなく分かりやすかった」
- ▶ 「応用して（職場でも）やってみたいと思った。」
- ▶ 「1ヶ月に1回より、もうちょっとやりたかった」

今後の課題

高次脳カフェ

- ▶ 参加対象の拡大
- ▶ 開催回数検討

ボランティア養成講座

- ▶ 受講回数・受講者の派遣や活躍の場所の検討
- ▶ 集団を指導する側の人材育成

高次脳機能障害支援普及事業

- ▶ 普及拡大方法の検討